



平成31年度 第1号

平成31年4月5日



印西市立西の原小学校

印西市西の原2丁目7 <http://inzai.ed.jp/nishinohara-e/>

学校教育目標

強い体 豊かな心 生きる知恵を学びとる、  
活気に満ちた子どもの育成

初春の令月にして、気淑く風和らぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす

新元号が決定しました。「令和」です。国書「万葉集」から初めて採用されたこの元号には「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められている」と安倍首相は述べています。平成時代を教師として生きてきた自分にとって、この改元は時代の終わりを感慨深く思うと同時に、子どもたちに、美しく心を寄せ合ってこれからの時代を担って欲しいと期待と希望が膨らむものになりました。

今始まる、新しい今。この1年が西の原っ子にとってよりよい成長の1年となるよう西の原小学校の職員一同力を尽くして参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 心の根っこを育てよう！

始業式では、子どもたちに三つのことを話しました。

一つは、全学年でクラス替えをした理由です。子どもたちが、新しい学年で新しい気持ちで様々なことにチャレンジして欲しい、一人一人が安心して楽しく過ごししっかりと学習できる学級・学年を作っていくと欲しいと伝えました。

二つ目は「心の根っこを育てよう」ということです。美しい花を咲かせることにとても重要な役目を果たしている根っこ。どんなにかんかん照りでも、どんなに人に踏まれても決して枯れたりしないタンポポを例に挙げました。生命力の強さの秘密は根っこにあること、14cmのタンポポと1メートルにもなるほどの根っこを絵で示しました。どんなに強い風が吹いても花を支え、しっかりと栄養を取り込む根っこは、タンポポの強さの象徴です。では、人間の根っこはどこにあるのでしょうか。それは「心」にあります。難しいことがあってもへこたれずに挑戦する心、嫌だと思っても勇気をもって頑張る心、粘り強く学習しようとする心…、心の根っこが育っていけば、友達ときっと仲良くできる、勉強はきっとできる、運動もきっとできる！だから、心の根っこを長く太く育てて欲しいと伝えました。

三つめは、「相手の心に届く言葉を使おう」ということです。実際に児童と「言葉」というボールでキャッチボールをしました。受け取れないような強い球（言葉）を投げたら、相手は怖い思い、痛い思いをします。相手に届かないような遠くに投げたり近くに投げたりしたら、言葉に乗せた気持ちも届きません。言葉は、互いの心と心を通い合わせるためにとても大切な役割をしています。そのキャッチボールの第1歩が挨拶です。相手の心に届く言葉を使い、挨拶がしっかりできる西の原っ子になって欲しいと伝えました。

始業式の後、学年開きを行いました。今年度は、担任だけでなく学年の先生方が全員で学年の子どもたちを見ていきます。勿論、どの学年でも専科でも教職員35名で513名の子どもたちを見ていきます。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、西の原っ子一人一人の成長のためにお力添えを頂きたくお願ひ申し上げます。どうぞよろしくお願ひ致します。

